

KSKP えのき

NEWSLETTER

地域で当たり前暮らしのために

編集人：社会福祉法人えのき会

理事長：古川 末子

京都市伏見区桃山町山ノ下44-8

075-605-0303 (TEL)

075-605-0310 (FAX)

e-mail: info@enokikai.or.jp

http://enokikai.or.jp

心豊かに成長できる職場に

事業統括部長 村上高久



社会福祉事業における人材確保が厳しくなっています。特に、ここ数年は新卒者の確保が困難で、学生の多くは複数の内定をもらい、より自分の希望に添う事業所を丁寧に選考し、先輩等からの情報も得て、じっくり選んでいると聞く。

現に、福祉就職フェアなどの来訪者数も減少し、五月以降のフェアになると事業所のブースを訪れてくれる学生はまばらな状況で、出会いの少なさに愕然とさせられることがしばしばである。

こうした状況のなか、えのき会では、多くの法人が取り組まれている、ホームページに就活サイトの開設や就活ナビへの掲載等、学生が情報確認するのに必要なツールを整備した。小さな法人には負担が伴うが、人材確保には一定の投資が必要な時代になっている。

さらに、インターンシップの受入、事業所説明会の随時開催などきめ細かな取組は、どの法人でも取り組まれていることであろう。いかに、事業所に関心をもってもらい、見学会に来訪し法人の魅力を感じてもらえるのか、この数年重視しているところである。結果として、毎年幸いなことに複数の学卒者を採用してきた。

学生からは、「職員の笑顔が観られ雰囲気が出る」とか、「利用者やマンツーマンの支援体制でじっくり関わるのができそう」といった感想が聞かれる。

そんな時には、えのき会が目指す一人ひとりの人生に寄り添い、地域の中であたりまえに暮らし中に利用者が幸せを感じられる、同時にそうした支援をとおして職員も心豊かに成長できる、お互いの未来を創造していける法人の一員として共に歩んでいきたいと声をかけることが多くなった。

えのき会には、障害のある子どもを抱えたお母さんが集まり、障害があっても尊い人生であってほしいと設立された法人である。その思いは、源流として継承されるべきであり、法人に関わる全ての人が理解し、従事すべきである。利用者を大切に支援することは結果として、周りの人々にも派生する。

私が今日まで歩んで来たなかで深く刻まれた実感でもある。後生に同様の悩みをもたなくても安心できる環境を創ると立ち上げられた創設者達の願いは、法人の理念となった。実践するなかで、法人の魅力を磨き、そのことに共感し、物語る人たちの輪を拡げたい。

京都鳥羽ライオンズクラブ様より

スヌーズレングッズを頂きました!!

京都鳥羽ライオンズクラブ様より、以前から欲しいと思っていました「スヌーズレングッズ」をご寄付して頂きました。

スヌーズレンは、70年代にオランダの知的障害のある人たちの施設で生まれ、発展し各地に広がって

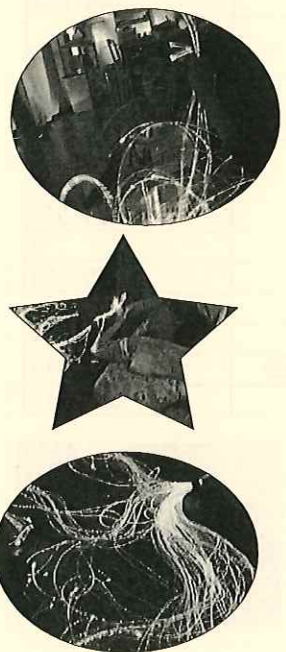
きました。光、音、におい、振動、温度、触覚の素材を組み合わせたリラクゼーションが、どんなに障害が重い人たちでも楽しめるということ、今、多くの施設で取り入れられています。

複の家でも、早速、頂いた光ファイバーにライトを点けてみると、利用者さんたちは、驚いたようすを見せながらも、目を大きく開いてファイバーの光を楽しんだり、光にそと手を伸ばして触れられたり、心地よい刺激となったようです。これからもプログラムの中で、どんどん活用していきたいと思えます。ありがとうございました。

光ファイバーにライトを点けてみると、利用者さんたちは、驚いたようすを見せながらも、目を大きく開いてファイバーの光を楽しんだり、光にそと手を伸ばして触れられたり、心地よい刺激となったようです。これからもプログラムの中で、どんどん活用していきたいと思えます。ありがとうございました。



目録の贈呈式にて



制度改正に伴う新役員が決まりました

去る6月14日、改正社福法のもと新評議員による定時評議員会が開催され、平成28年度決算報告、役員選任等が承認されました。

この後で、平成29年度第1回理事会が開かれました。改正福祉法に伴う理事長、監事等の新役員が選任されました。

役員

敬称略

理事長

古川末子

常務理事

村上高久

理事

渡辺登志子(執行役員)

高橋陽子(執行役員)

西村清忠

橋本加津代

監事

磯貝英雄

荻原卓司

評議員

岸本栄嗣

小林幸次郎

小山敏枝

下山ささ子

清水千賀子

田中聖

山田章代

これからも、ご指導ご鞭撻の程
よろしくお願い致します。



貸借対照表

平成29年 3月31日現在

(単位：千円)

資 産 の 部				
勘 定 科 目				当年度末
流動資産				116,878
現金	預	金		57,735
現 業	未	収	金	51,362
未	収		金	7,023
前	払	費	用	696
仮	払		金	62
固定資産				603,748
基本財産				376,691
土		地		181,602
建		物		194,389
定		期 預 金		700
その他の固定資産				227,056
構 築		物		4,892
機 械 及 び		装 置		83
車 輦 運 搬		具 備		5,741
器 具 及 び		備 品		4,048
ソ フ ト ウ ェ		ア		208
退職 給付 引当		資 産		8,698
長 期 積 立		資 産		201,960
出 資		金		58
差 入 保 証		金		1,367
資産の部合計				720,626
負 債 の 部				
流動負債				44,170
未 払		金		20,726
1年以内返済予定借入金				5,024
預 り		金		3,420
賞 与 引 当		金		15,000
固定負債				45,190
設 備 資 金 借 入		金		30,492
退 職 給 付 引 当		金		8,698
長 期 預 り		金		6,000
負債の部合計				89,360
純 資 産 の 部				
基本金				190,408
基 本		金		190,408
国庫補助金等特別積立金				96,945
国庫補助金等特別積立金				96,945
次期繰越活動増減差額				343,913
(うち当期活動増減差額)				45,834
純資産の部合計				631,266
負債及び純資産の部合計				720,626

事業活動計算書

(自) 平成28年 4月 1日 (至) 平成29年 3月31日

(単位：千円)

勘 定 科 目	当年度決算(A)
サービス活動増減の部	
収 益	
障害福祉サービス収益	337,830
経常経費 寄附金 収益	3,279
サービス活動収益計(1)	341,109
費 用	
人 件 費	248,490
事 業 費	14,873
事 務 費	23,320
減 価 償 却 費	17,557
国庫補助金等積立金取崩額	-7,000
サービス活動費用計(2)	297,240
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	43,870
サービス活動外増減の部	
収 益	
受取利息 配当金収益	268
その他サービス活動外収益	1,873
サービス活動外収益計(4)	2,141
費 用	
支 払 利 息	176
サービス活動外費用計(5)	176
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	1,965
経常増減差額(7)=(3)+(6)	45,834
特別増減の部	
収 益	
サービス区分間繰入金収益	90,522
特別収益計(8)	90,522
費 用	
サービス区分間繰入金費用	90,522
特別費用計(9)	90,522
特別増減差額(10)=(8)-(9)	0
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	45,834
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額(12)	298,079
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	343,913
次期繰越活動増減差額	343,913



西宮市「青葉園」の清水明彦氏をお迎えして

去る6月4日(日)、西宮市社会福祉協議会常務理事清水明彦氏に、えのき会の職員研修会でご講演いただきました。西宮市の重い障害のある人たちの地域活動拠点である「青葉園」を創設され、今日に至るまで障害のある人らと共に、地域での暮らしを実践してこられた経過等、熱く語っていただきました。

清水さんの講演を聴いて

サポートセンターめい・北井恒平

今回の講演の率直な感想としては、「本当に情熱を感じる内容だったなあ」というものでした。成り立ちから、青葉園に関わる方々が取り組んでこられたこと、その想いが熱く伝わってきました。

そんな自分の中の素直な感想とは別に、自分自身に對しての問いも生まれてきました。

『自分は小さくまとまっていたんじゃないか』清水さんは、「利用者さんが『今日も1日生きていてよかった』と思うようにすることが支援者の仕事ではないか」、というように仰っていました。

そのために、西宮では本人中心支援計画(京都市でいう個別支援計画)を作成し、一人一人を主人公としたそれぞれの物語を展開させておられます。様々な取り組みに素直に感動する一方、聴けば聴くほど、先程の自問が大きくなるように。

講演後、清水さんと直接お話しをさせていただく機会があり、感想と共に内なる疑問について伝えてみました。それに対し清水さんは「支援者の君が小さくまとまるということは、関わっている利用者さん達の存在を小さくまとめてしまうことだ、決して小さくまとまるなよ」と返されました。この時、先ほどの自問が自分自身への悔しさなのだと気付きました。

「利用者さん本人を中心に」、

「その人の人生が豊かになるように」、

と言いつつも自らも果敢として…という反省もありましたが、これまでは利用者さんと共に喜び、共に悩み、共に歩んでいくことへのスタートラインに立てていなかったのではないかと悔しさが大きく広がり、その気持ちがある今も自分の中で大きくなっているのを感じます。

今回の講演で今後えのき会が目指していくモデルを見たように感じました。そして今、私は本当にスタートラインに立つことができたのかもしれない。改めて利用者さん一人一人と向き合い、ともに歩み、共に大きく輝けるよう、いい意味で『小さくまとまらない』法人、自分自身となれるよう精進していきたいと思います。



榎の家・平井 健二郎

先日は貴重なお話を有り難うございました。また、講演後のお酒の席でも楽しいお話を聴くことが出来、大変よい経験となりました。それらを踏まえ、自分なりに考えた事を綴らせていただきます。

講演後のお酒の席でしたが、私が「実習生が来たときは何を教えたなら、伝えたらいいのか迷っている」という相談に「その人がどういう人なのかを一生懸命伝えなにかん!」と仰った一言が印象深く残っています。それを聞き、清水さんが、「利用者」と「職員」ではなく、「人」と「人」の付き合いを大事にされていることを感じました。「利用者」ではなく「その人」と呼ばれたことに意味はないのかもしれませんが、自分なりに少し考えてみようという気になりました。

生活介護、グループホームなど一見、利用者にやさしい空間に見えても、世間や社会からの隔離の場となっているのではないかと、思うことがあります。安全で、職員は概ね優しい、テンプレート化された職員との空間が、はたして社会といえるのかな、と。

利用者のAさんではなく、Aさんという人間そのものを見て、面白いところも、面倒だなと感じるところも、良いところも、悪いところも含めて、それらを美化しないで、ありのままのその人となりを捕まえ、職員だからといって自分の性格を隠さず、そのままにやり取りできること、いろんな人、好きな人、嫌いな人もいて、そういうものに囲まれてこそ、その人の人生なのかな、と。

「人」と「人」ではない「職員」と「利用者」の関係は、その人達にとつての社会とは何なのかという問題を内包しているように感じました。職員としては、介助など技術を提供する職人として、人としては職員の平井ではなく、一人の人間としての平井を以てして、利用者に関われることを目標としようとする時点では思っています。考える機会をいただき、よい経験となりました。改めてありがとうございます。



防犯カメラ設置について

昨年、神奈川県相模原市での事件後、厚生労働省より社会福祉施設等における入所者やご利用者の安全確保について注意喚起がありました。えのき会でも事件発生の翌日より各事業所の施設時刻と方法を見直し対応するとともに、より安全に事業所をご利用していただけるよう国の助成を受けて、榎の家北棟・南棟、さくらの家・ベルに防犯カメラを設置しました。

この点、地域と一体となった開かれた社会福祉施設になることと、防犯にかかる安全確保がなされた社会福祉施設との両立を図るためには、防犯設備の強化はもとより、日頃からご利用者が地域に出て活動し地域住民と顔の見える関係づくりをして、一人ひとりの存在を知ってもらうことが重要であると感じています。これからも地域に開かれた「えのきらしさ」を大切にご利用者の安全確保に努めてまいります。

事務局 西山竜

敬称略・順不同

ご寄付のお礼とご報告

2016年4月～2017年4月末

勝見博光 中野敏子 「ご無沙汰しております。ゆっくりお話ししたいです。」 竹村壽子 「前向きに活動されて障害のある人を支えておられる皆様に感動を覚えます」 原哲夫 谷川政弘 いつもご協力ありがとうございます。 谷内文子 「応援しています」のメッセージを添えて。いつもありがとうございます。 猪鼻昌司 えのき会にいつもご協力ありがとうございます。 谷口登茂子 お元気ですか。 山村幸子 「有」大谷商事 いつも何かとご協力頂きありがとうございます。 内藤善三 長年のご支援に感謝です。 法人の役員、顧問としてお世話になっております。 磯貝英雄 早川京子 西村清忠 高橋陽子 橋本加津代 奥田希充子	中路慶子 小仲奉子 稲垣美代 森田幸子 土田恵理子 伊東由利子 「少額ですが。応援しています」のお言を頂きました。感謝しております。 土田登美雄 いつも感謝しております。 山本正治 及川洋一 長年にわたってのご支援、ありがとうございます。 武蔵野真知 「前号の橋本先生の記事は障害のある人だけでなく共通の問題ですね」といつもメッセージ頂き、私どもの励みになります。 正木敦士 「いつもニュースお送り頂きありがとうございます」のメッセージ。ご支援ありがとうございます。 木田幸男 清水孝男 中島勉 「少額ですがお送りします」のお言葉を。長年のご支援に感謝致します。 井上充子 「大変ですが頑張ってくださいませ」のお言葉を添えて。感謝申し上げます。	山名靖英 梅原久美子 少しは、ゆっくりできますか。 桑田明仁 長きにわたってのご支援心より感謝しております。 秋山泰人 平井正一郎 土田文子 いつもお世話になります。 草場周啓 いつもご支援頂きありがとうございます。 武部久美子 山ノ下町内会 北川良工務店 建物のメンテナンスで お世話になっております。 おばちゃんの家 若桐の会 スタジオkimi 皆様、毎年ありがとうございます。 「ご利用者のご家族からご支援を頂きました」	津々木幸子 松川剛士 岡千栄子 宮坂亜矢子 安井愛咲 飯田武志 松田晶代 三矢佑悟 大西美智子 西村誓之助 田村圭司 宮下猛雄 河本弘子 竹本勝一 渡辺登志子 武内志真子 樋口和子 小山敏枝 進藤育子 武内志真子 高橋隆行 北野井曉 「何かのお役に立てれば」のお言葉と共に。感謝致します。 古川末子 玄関の募金箱 京都鳥羽ライオンズクラブ 淡路玉ねぎ・2箱 給食に使わせて頂きました。ありがとうございます。 ~~~~~ 利用される方やご家族に喜んで頂ける支援を提供していきたいと思えます。
---	---	--	---

編集後記

上野千鶴子さんが「生き延びるための思想」の中で、「ケアとは非暴力を学ぶ実践である。これまで、どれほどの母が、妻が、嫁が、娘が、依存せずには生きていけない者の傍らで、そこから立ち去ることを選ばずにきたのだろうか？」

「何かのお役に立てれば」のお言葉と共に。感謝致します。

障害のある子の介護を黙々と引き受けてきた母親たちにとって、こうして言語化され社会化されていくことが、エンパワメントとなっていく。

戦争に繋がる法案が次々採決される中、もっと広く深く認識されてほしいと願います。

（f）



計 3,296,346円

□ 発行人・関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2
東興ビル4F



□ 編集人：(福) えのき会 理事長 古川末子
〒612-8002
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8